

令和5年度 前期学校アンケート集計結果

前期学校アンケートへのご協力、ありがとうございました。東小学校グランドデザインと照らし合わせながら、児童・保護者の皆様からいただいた結果をまとめましたので、お知らせいたします。

東小学校グランドデザインより

☆学校の目標 ()内はR4年度後期アンケートの「そう思う」+「どちらかという」と「そう思う」の割合
 学校が楽しい 98%(100%) 授業が分かる 98%(92%) 挨拶 98%(95%) 言葉遣い 94%(93%)
 人が困っているときは進んで助ける 96%(96%) 目標をもって努力する 96%(96%)
 読書が好き 90%(93%) 進んで思いや考えを話したり書いたりして表現する 92%(92%)
 家で勉強や宿題をよくやっている 96%(75%) ICTを効果的に活用した授業 88%(84%)

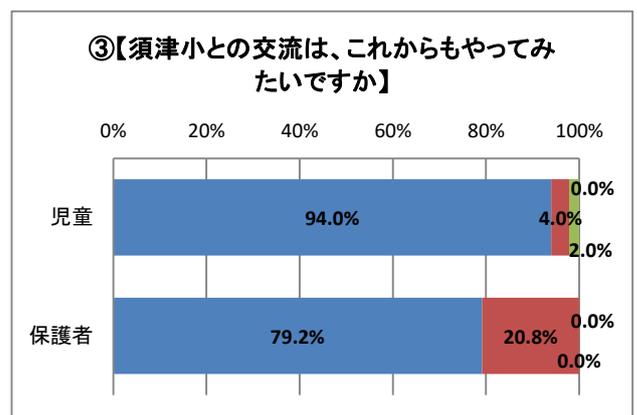
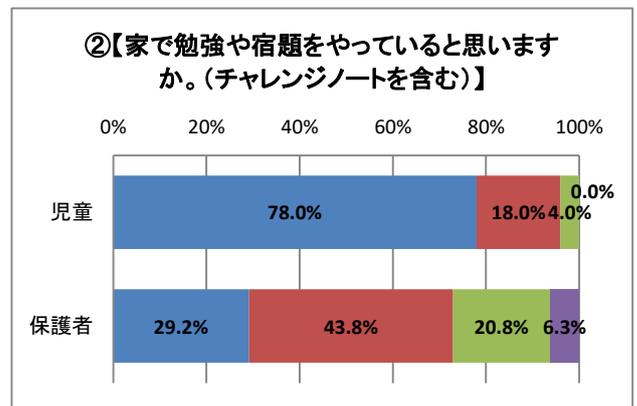
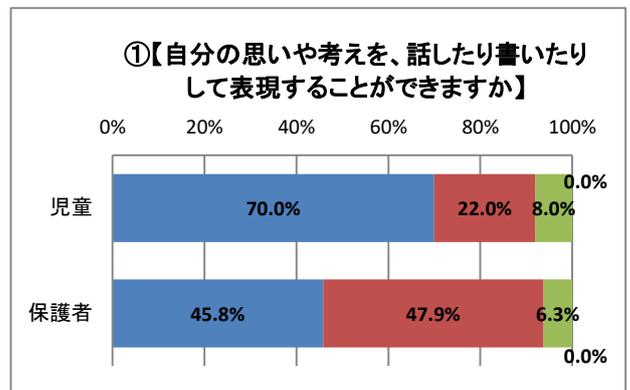
※グラフの水色は「そう思う」、赤色は「どちらかというとそう思う」、黄緑色は「どちらかというとそう思わない」、紫色は「そう思わない」を表しています。

〈結果と考察〉

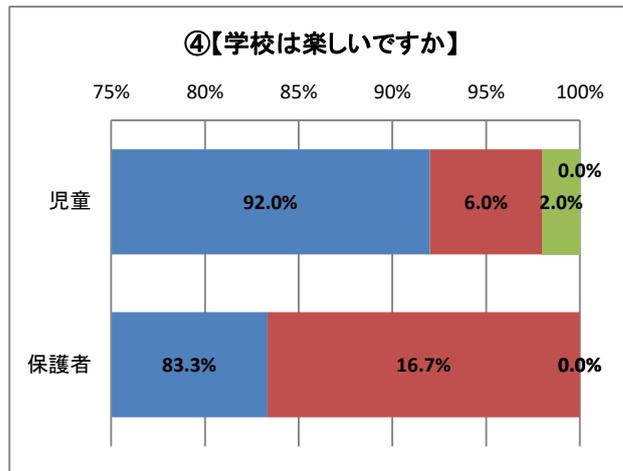
①「自分の思いや考えを、話したり書いたりして表現することができますか。」の質問に対して、昨年度後期は「そう思う」48.2%、「どちらかというとそう思う」が44.6%でした。今年度前期は「そう思う」が70%になり、自信をもって自分の考えが言えると答えた児童が増加しました。重点目標は、「自分から伝えよう」です。優しく素直な東小児童が、予測困難な時代を自ら考え判断して行動できるよう、学校では授業や小小交流等の教育活動で自分から発信する機会を多く作ってきました。子供たちが自信をもって、表現できていることがうかがえます。今後も主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行っていきます。

②「家で勉強や宿題をやっていると思いますか。(チャレンジシートの活用含む)」の質問では、96%の児童が肯定的回答をし、昨年度の75%から飛躍した結果になりました。ご家庭での励ましやお声掛けのお陰で、子供たちが家庭学習を習慣化できるようになってきたと考えられます。須津中学区三校で、自主的・計画的な学習ノート「チャレンジノート」も4年生以上で実施していますが、課題の作り方、学びの足跡、振り返りも、日々できるようになってきています。今後も、子供たちの声掛けや見守りをお願いします。

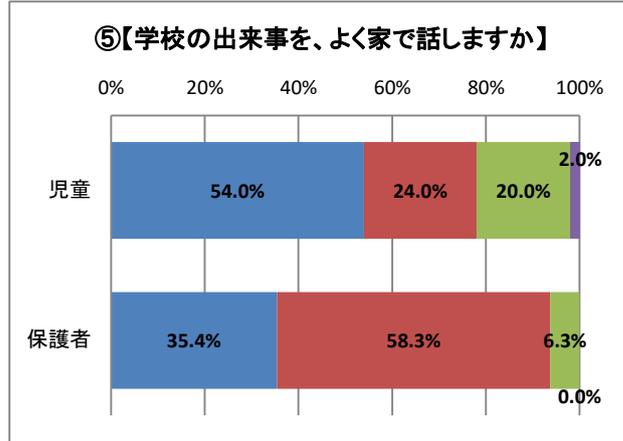
③「須津小との交流は、これからもやってみたいですか。」という質問には、98%の児童が肯定的回答でした。昨年度までは、みどりの学校で一緒に活動するなど高学年になってから交流を始めましたが、今年度は1年生から全学年で須津小との交流を始めました。最初は大人数に入っていく緊張感もありましたが、どの子も活動の中で、自分から関わり伝え合うことを通して安心し、自然と笑みがこぼれるようになりました。新しい友達ができたとや、一緒に授業ができたことが、とても嬉しそうでした。来年度から始まる小中一貫教育、三校の目指す子供像「たくましい子」に向けて、交流を続けていきます。



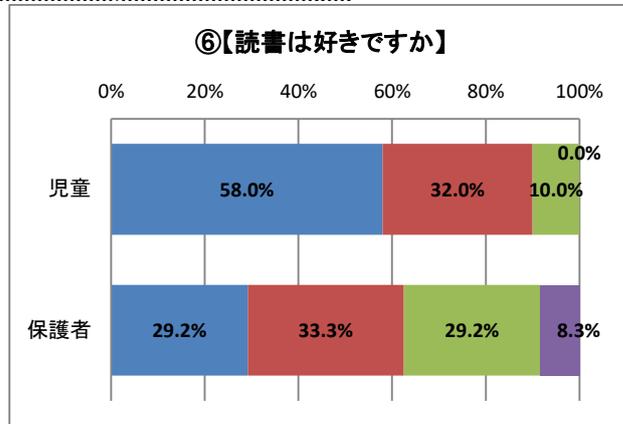
④「学校は楽しいですか。」の質問では、98%の児童が肯定的回答だった一方で、2%の児童は「どちらかというところ思わない」と答えています。多くの子供たちが、学校の中に居場所があると感じ、楽しく充実した日々を過ごしていることがわかりましたが、全ての児童ではありませんでした。全職員でより一層、子供の声に耳を傾けて、心に寄り添いながら教育活動を行っていきたいと思います。児童会の代表委員会で「生き生き輝く東小にしよう」の議題で話し合った結果、全校みんなで遊びたいということになりました。7月中旬には、6年生を中心に遊びを考え、たてわり遊びを行い楽しい思い出ができました。今後も「明日も学校に来たい」学校を目指します。



⑤「学校の出来事を、よく家で話しますか。」という設問では、「どちらかというところ思わない」「そう思わない」と答えた児童は全体の22%でした。コロナ禍を経験した子供たちには、他者との関わり合う力や表情を読み取る力が環境的（ソーシャルディスタンス・マスク生活）に育ちにくかったと言われていいます。また、教育の専門家から今後3、4年間は子供たちの成長を温かくより丁寧に見守る必要があるとも聞きます。保護者の方も忙しいと思いますが、就寝前のわずかな時間や土日などに、学校での話を共感的に聴いていただけると子供のコミュニケーション力や、自己肯定感が高まります。今後も、日々の子供たちの様子を学年・学校便り、ホームページやCSだより等を通して発信していきます。



⑥「読書は好きですか。」の質問では、肯定的回答をした児童は、90%でしたが、「どちらかといえばそう思わない」と回答した児童が10%でした。現在の子供の傾向として、動画の映像や音声からの情報理解は早いものの、文字からの意味理解には時間がかかるようです。小学校段階から、読み聞かせや読書で文字からイメージを膨らませて読むことは、語彙力を増やしたり、自分の気持ちを言葉で表現したりすることにも有効です。困ったときに「助けて。」「一緒にやっで。」「教えて。」と言ったり、嬉しいときに「ありがとう。」「幸せ。」「最高。」と伝えたりすることは、人生を豊かにする一助にもなります。また、東小卒業生から「高校に行って、読むことに困らなかったのは、小学校時代に、本をたくさん読んだからです。」という声も聞きました。すぐには目に見えにくい力ですが、読書（読む力）は、全ての教科の土台にもなっています。6月の読書月間では、親子読書もご協力いただき、ありがとうございました。その時間がとても楽しかった、嬉しかったという子供の喜びの声が多数届きました。これからも学校と家庭とで、協力しながら子供の学びを支えていけたらと願っています。



ここに載せきれなかった結果からも、保護者の方々をはじめ、東小サポーター～いっしょにやらざあ～の方々、地域の方々に多大なご協力をいただいていることが、子供たちの励みになっていることがわかりました。

保護者の皆様よりいただきましたアンケート結果を参考に、良い点は継続し、見直すべき点は改善するよう修正し、今後もより良い学校運営を行っていきたいと思います。東小は、地域とともにある学校です。「自分が好き・学校が好き・地域が好き」な子供の育成のため、引き続き、ご支援・ご協力をお願いいたします。